

流通構造調査（シンガポール） ホタテ貝

2015年3月

日本貿易振興機構（ジェトロ）

シンガポール事務所

農林水産・食品調査課

【免責条項】本報告書で提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェットロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本報告書で提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェットロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。

シンガポールにおける 2014 年のホタテ貝輸入は 971 トンと 2012 年頃までの年間 1,000 トンレベル近くまで回復した。日本産ホタテ貝の大半は刺身用としての需要が強くしっとりとした触感が好まれ、乾燥品で約 6 割、生鮮・冷凍品で各 3 割を占めている。ただしシンガポールには競合する外国産ホタテ貝も多数流通し日本産とは異なった触感や価格面で優位なため中華料理店をはじめ日本食レストラン以外でのシェアを確保している。シンガポールには独特な商習慣が存在しており、事前調査を十分に行い、市場参入を計画すべきである。

<日本食ブームとともに消費量が増加>

日本からのホタテ貝(生鮮、冷蔵・冷凍、塩蔵、乾燥)の輸出先としてシンガポールは、2014 年金額ベースで韓国、台湾、オランダ等につき第 8 位に位置している。シンガポールにおけるホタテ貝の生産はほぼゼロのため、輸入がおよその市場規模となり 2014 年の輸入量(生鮮・冷凍・乾燥)は 97 万 1,160 キロと前年比 10.7%増加した。このうち冷凍および乾燥のホタテ貝合計が全体の 96.8%を占めている。

2014 年の冷凍ホタテ貝(貝付き・玉冷)の輸入量は 67 万 6,600 キロ(前年比:16.5%増)、輸入額は、687 万 7,236 米ドル(同:5.2%減)であった。うち日本からは、金額ベースで中国に次ぐ第 2 位の 195 万 6,911 米ドル(同 28.1%増)、一方数量ベースでは 10 万 50 キロ(同 13.4%増)と大幅に伸びた。また輸入平均単価(1 kg 当たり米ドル)は日本産 19.56 ドルに対し、中国産 7.63 ドルと 2.5 倍強の価格差が生じている。

また、2014 年の乾燥ホタテ貝の輸入量は 26 万 3,390 kg(前年比:3.0%減)、輸入額は、1,221 万 283 米ドル(同:16.9%減)であった。うち日本からは、金額ベースで第 1 位の 698 万 6,460 米ドル(同 26.2%減)、一方数量ベースでは第 2 位の 8 万 2,120 キロ(同 30.5%減)と、第 1 位の中国の約半分近くまで減少した。キロ当たりの輸入平均単価は同様に日本産 85.08 米ドルに対し、中国産 27.49 米ドルと約 3 倍の価格差が生じている。

ホタテ貝はその年の北米における天然物や中国における養殖物の漁獲量によって、取引量や取引金額は変動しやすい特徴がある。2014 年は当地への絶対的供給量が不足し、多くの輸入業者がホタテを買い求めるも当地で人気の玉冷 L サイズが特に枯渇し、価格が非常に高騰していた。

<現地バイヤーは価格優先により他国産で刺身需要をまかなう>

日本産ホタテ貝の流通実態について、日本産ホタテ貝の輸入・小売業者数社にインタビューを行った。当地の水産物の輸入卸を行う現地系大手企業の担当者によると、「日本産ホタテ貝が高品質であることは知っているが、当地の多くの輸入者ですら商品知識に乏しく、日本産を真似たニセ物と本物の区別がつけられない。そのため、価格の安い他国産を扱っている。また、日本産=刺身用という消費者のニーズもあり、調理方法・取引先によっては他国産のホタテ貝を販売」との状況である。日本産ホタテ貝が一層普及拡大するためには、日本食の普及が進んでいると言われるシンガポールにおいても、なお地道な広報活動が必要であることを示している。

<刺身以外の他業態向け開拓とブランディング対策がカギ>

シンガポールの日本食レストランは約 900 店舗超あると言われており、年々その数は増加基調にあるものの、シンガポールの全飲食店数のうち約 14%程度となる。日本産ホタテ貝のシンガポールにおける

飲食店向けの流通の大半は日本食レストランにおける刺身での提供である。

シンガポールに流通する日本産ホタテ貝のうち、金額ベースでは冷凍品が 28%を、乾燥品が 57%を占め比重は高いものの、数量ベースでは中国産が日本産のそれぞれ品目の 4.8 倍、1.9 倍と大きな開きがある。さらに供給先を拡大するためには、中華料理店をはじめとした他業態の開拓が必要である。主に中華料理店で求められるホタテ貝は、一般的に触感がプリプリとした他国産のホタテ貝であり、日本産のさらなる普及には乗り越えるべき課題もある。

またマーケットが小さく、飲食店 1 店舗あたりのオーダー量が限られていることから、物量がまとまりにくく結果として物流費が増大し、他国産と比較して価格差が生まれている。物量の拡大には、「日本産＝刺身用」という概念を払拭し日本食レストラン以外への拡販を強化する必要がある。

シンガポールにおいて日本産ホタテ貝は、日系の明治屋や伊勢丹といった高級スーパーや現地系スーパーの Cold Strage, NTUC Fairprice Finest で販売されている。日本国内(主に北海道)にて加工された 1 キロボックス入りの玉冷が大半で、価格は 60～70S ドル(1S ドル=90 円)と非常に高額である。一般的に日本産のホタテ貝は「甘みが強く、しっとりとした触感」がシンガポール人に好まれている。

一方、日本産ブランド価値の低下についても対策が必要である。日本国内における加工費が高く、東南アジアの小売店頭で販売されているものの大半が中国で加工されたものである。パッケージングが精巧に日本の加工業者に似せた形で製造されているなど、一見日本産に見えるが日本語の表記がおかしい点が多くみられる。これらは一般的にインジェクション(注入による成形)が行われており、原料貝は日本産であることから、今後何らかの対策を行わなければ日本産について風評被害となる可能性もある。

<小売価格は出荷価格の約 2 倍>

輸出業者は、商品が日本国内の指定倉庫へ到着後、輸出通関手続き、リーファーコンテナでの海上輸送を手配。輸入業者はシンガポールの輸入通関手続き、各小売店舗への配送を行う。日本からシンガポールへの海上輸送の所要日数は、12 日から 21 日(直行もしくは韓国・釜山経由)。流通経路における各所要日数については、添付の表に記載している。シンガポールへの輸入においては、日本側の公的機関が発行した原産地証明書または商工会議所によるサイン証明の添付が義務付けられる上、輸入通関時に放射線検査が実施されている。

流通費用のヒアリング結果から、間接貿易における小売価格は費用積上方式で設定されており、シンガポールでの小売価格は、日本の生産者の出荷額の約 2 倍になることがわかった(表参照)。ホタテ貝の輸入に際して、輸入関税は賦課されないが、海上輸送費、通関手数料、シンガポールでの国内配送料など、物流コストが非常に高く、またマーケットも人口 547 万人(2014 年)しかないため、物量も集まりにくいことが課題である。さらに卸売業者、輸出業者、輸入業者、小売業は、その都度利益(マージン)として 25～30%設定している。現地系スーパーからは、リベート、新商品の登録時の手数料、取引口座開設手数料等を要求されることが一般的である。

生鮮品については、日本との距離の関係上、航空輸送が必須でありさらに輸送コストが増大する要因となっている。

(注) 以下、輸入業者や小売業者へのヒアリングに基づく。本ケーススタディーでは、生産者(メーカー)は輸出業者に国内取引で製品を引き渡す間接貿易を想定。

表1 シンガポールの主要国別生鮮ホタテ貝輸入

順位	国名	輸入額 (米ドル)					輸入量 (kg)	
		2012年	2013年 (A)	2014年 (B)	伸び率 (B/A)	構成比 (B)	2014年 (C)	平均単価 (米ドル/ kg、B/C)
1	英国	19,269	74,011	192,249	159.8%	44.2%	12,470	15.42
2	日本	10,021	40,112	136,346	239.9%	31.4%	5,840	23.35
3	ノルウェー	107,019	102,842	88,149	△ 14.3%	20.3%	9,170	9.61
4	インドネシア	38,139	18,256	5,329	△ 70.8%	1.2%	2,370	2.25
5	フランス	20,421	8,123	3,591	△ 55.8%	0.8%	110	32.65
	全世界	232,724	250,689	434,590	73.4%	100.0%	31,170	13.94

(注) 生鮮ホタテ貝の関税番号：030721

(出所) シンガポール国際企業庁 (International Enterprise Singapore)

表2 シンガポールの主要国別冷凍ホタテ貝輸入

順位	国名	輸入額 (米ドル)					輸入量 (kg)	
		2012年	2013年 (A)	2014年 (B)	伸び率 (B/A)	構成比 (B)	2014年 (C)	平均単価 (米ドル/kg、 B/C)
1	中国	4,462,380	3,517,165	3,640,817	3.5%	52.9%	476,870	7.63
2	日本	1,545,126	1,527,855	1,956,911	28.1%	28.5%	100,050	19.56
3	米国	2,126,590	586,757	476,190	△ 18.8%	6.9%	20,540	23.18
4	カナダ	474,468	541,610	130,683	△ 75.9%	1.9%	6,540	19.98
5	チリ	76,835	330,418	148,085	△ 55.2%	2.2%	10,500	14.10
	全世界	9,333,738	7,257,777	6,877,236	△ 5.2%	100.0%	676,600	10.16

(注) 冷凍ホタテ貝の関税番号：03072910

(出所) シンガポール国際企業庁 (International Enterprise Singapore)

表3 シンガポールの主要国別乾燥ホタテ貝輸入

順位	国名	輸入額 (米ドル)					輸入量 (kg)	
		2012年	2013年 (A)	2014年 (B)	伸び率 (B/A)	構成比 (B)	2014年 (C)	平均単価 (米ドル/kg、 B/C)
1	日本	9,496,299	9,463,219	6,986,460	△ 26.2%	57.2%	82,120	85.08
2	中国	5,443,217	4,145,000	4,322,478	4.3%	35.4%	157,230	27.49
3	香港	1,175,222	1,043,230	855,650	△ 18.0%	7.0%	20,540	41.66
4	ベトナム	0	453	40,386	8815.2%	0.3%	3,000	13.46
5	マレーシア	30,240	11,908	3,541	△ 70.3%	0.0%	360	9.84
	全世界	16,148,524	14,690,623	12,210,283	△ 16.9%	100.0%	263,390	46.36

(注) 乾燥ホタテ貝の関税番号：03072920

(出所) シンガポール国際企業庁 (International Enterprise Singapore)

【補足表】 シンガポールにおけるホタテ貝三品種 (生鮮、冷凍、乾燥) の輸入動向 (数量)

種類/輸入量 (kg)	2010年	2011年	2012年	2013年 (A)	2014年 (B)	伸び率 (B/A)	構成比 (B)
生鮮	64,610	47,740	30,280	24,980	31,170	24.8%	3.2%
冷凍	727,980	907,520	817,280	580,590	676,600	16.5%	69.7%
乾燥	368,490	268,190	316,990	271,640	263,390	△ 3.0%	27.1%
合計	1,161,080	1,223,450	1,164,550	877,210	971,160	10.7%	100.0%

(注) 生鮮ホタテ貝の関税番号：030721

(注) 冷凍ホタテ貝の関税番号：03072910

(注) 乾燥ホタテ貝の関税番号：03072920

(出所) シンガポール国際企業庁 (International Enterprise Singapore) 資料から作成

シンガポール

日本産ホタテの流通経路・時間等

表4. 流通（物流）経路、時間、および商慣習

流通（物流）経路	所要時間 （日数）	備考
漁業者 ↓ 卸売業者・加工業者	1日	漁協を通して、水揚げ港で浜値で取引
卸売業者・加工業者 ↓ 輸出業者	2日 (加工の場合は 加工後)	原貝のまま輸出、若しくは加工後、玉冷等として流通
輸出業者 ↓ 通関〔日本国内主要港〕	2日	
海上輸送 (直行若しくは釜山港経由)	12日～21日	リーファーコンテナにて海上輸送（積替港のスケジュールにより変動）
通関〔シンガポール港〕 ↓ 輸入業者	1日～3日	シンガポールの輸入通関は24時間運営されており、迅速に処理される
輸入業者 ↓ 卸売業者	(1日)	シンガポールでは輸入業者が卸売業者を兼ねることも多い
卸売業者 ↓ 小売業者・飲食店	1日	小売業者・飲食店の注文に基づき、卸売業者が各店舗へ配送
小売業者・飲食店 ↓ 一般消費者		日本から消費者へ提供されるまで、20日～31日必要

(資料) 各社へのヒアリングを基にジェトロシンガポール事務所作成

シンガポール

日本産ホタテの流通(物流)費用

表5. 流通(物流)費用

輸出形態		海上輸送(リーファーコンテナ)					
ロット		20FT					
場面	コスト		ロットあたりのコスト		単価		商慣習等
	項目	(税)率等	計算内容	累積	出荷額=100	輸入価額=100	
漁業者 ↓ 卸売業者・加工業者	出荷額			A	100		卸売業者・加工業者が漁協より買付。指定日までに卸売業者が指定倉庫へ輸送。
	輸送費等	5%		B	105		
卸売業者・加工業者 ↓ 輸出業者	輸送費等	15%		C	120		
輸出業者 ↓ 通関〔日本〕	輸送費等	10%		D	130		船積
通関〔シンガポール〕 ↓ 輸入業者	輸入額			E		100	シンガポールにおけるホタテの輸入関税は無税
	基本関税	0%		F			
	通関手数料			G			
輸入業者 ↓ 卸売業者	マージン	10~15%		H	145	115	マージンは10~15%設定 通関後、内貨とした際に付加価値税(GST)7%が課税される
	国内輸送費			I			
	付加価値税	7%		J	152	122	
卸売業者 ↓ 小売業者・飲食店 (日系スーパー・飲食店)	マージン	1~5%		K	157	127	大手輸入業者から中堅の2次卸売業者へ国内流通するケースもあり、その際のマージンは1~5%
	国内輸送費			L			
	付加価値税	7%		M	164	134	
小売業者・飲食店 (日系スーパー・飲食店) ↓ 一般消費者	マージン	30~35%		N	199	169	マージンは30~35%設定。特にローカルの小売店では新商品の登録手数料や取引口座開設手数料、PR費用の要求もある。
	付加価値税	7%			206	176	

(注) 1. 通貨換算：1S\$=90円

2. 表は各社へのヒアリングにより概要を要約したもので、全てのケースと合致しない。また表中の諸費用も同様である。

(資料) 各社へのヒアリングを基にジェトロシンガポール事務所作成

Copyright © 2015 JETRO. All rights reserved. 禁無断転載

流通構造調査（シンガポール-ホタテ貝）

2015年3月作成

作成者 日本貿易振興機構（ジェトロ） シンガポール事務所、農林水産・食品調査課
〒107-6006 東京都港区赤坂 1-12-32
Tel : 03-3582-5186 E-mail : AFC@jetro.go.jp
